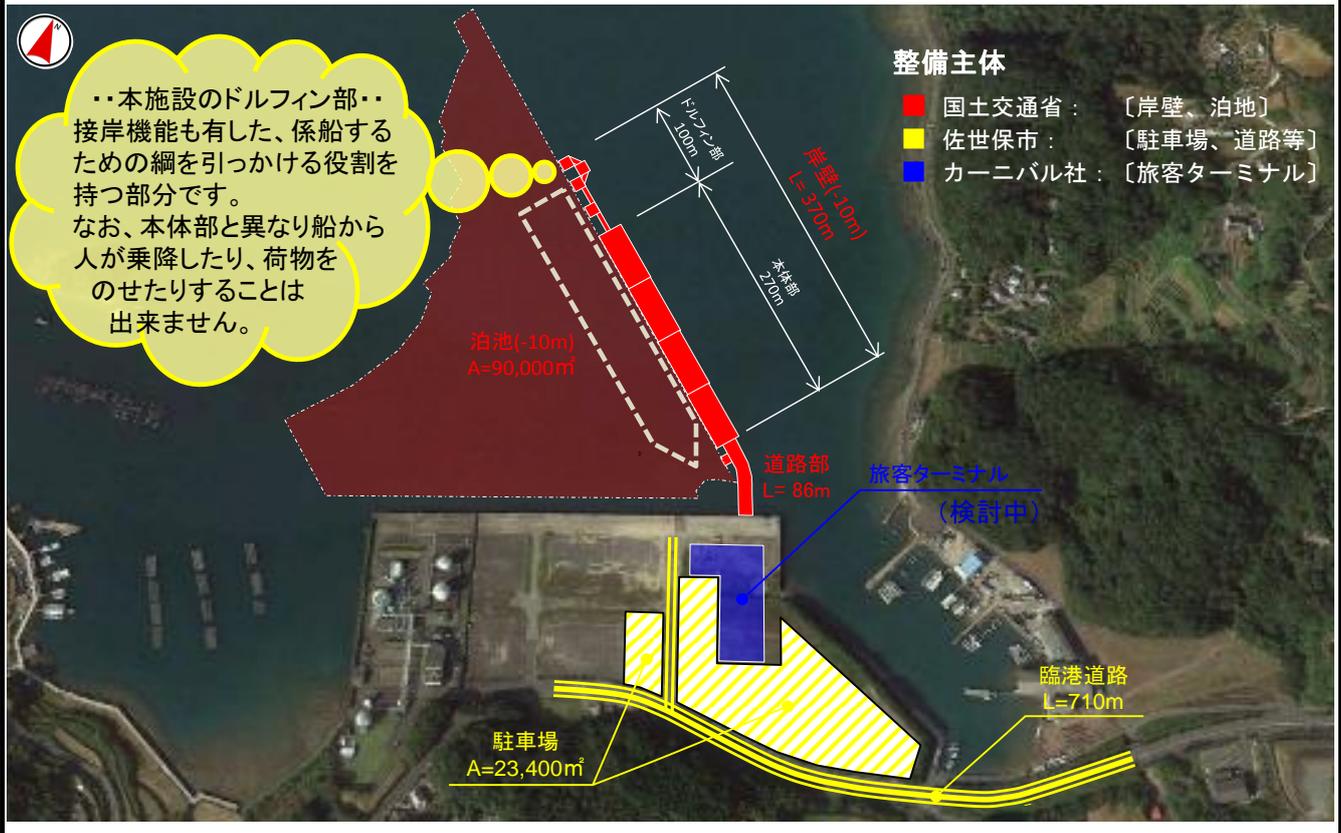


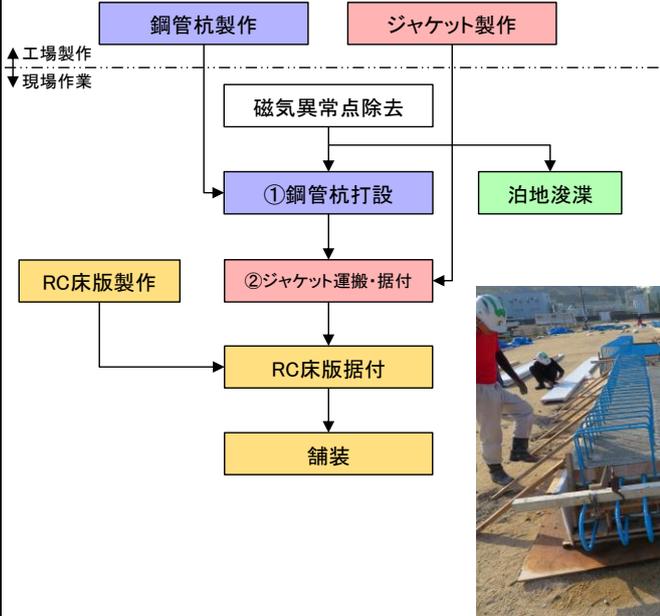
ジャケット据付見学会in佐世保港

現在、佐世保港浦頭地区では、東アジアを周遊するクルーズ船の寄港増加に対応するため16万トン級のクルーズ船が接岸出来る岸壁やターミナル等を国・佐世保市・カーニバル社(クルーズ船社)で連携し整備を行っています。この佐世保港浦頭地区はハウステンボスや西海橋等の観光資源が近くにあり、供用を開始した際には多くの観光客が訪れ地域の活性化に大きく貢献します。この工事で私たちは、ジャケット式と呼ばれる構造で岸壁の整備を行っており、今回一番の見所であるジャケットの据付に合わせて、去る12月21日に見学会を開催しました。

◀ 浦頭地区 配置計画図 ▶



工事の施工フロー（国土交通省施工箇所）



鋼管杭打設



泊地浚渫



RC床版製作



16万トン級のクルーズ船が接岸するためには水深が10m以上必要なので、浚渫工事により必要水深を確保します。浚渫工事は現在も行われており、H31.3月下旬に完了する予定です。
 今回の岸壁はジャケット式のため、土台部分に長さ30m程の鋼管杭を先行打設しています。そこにジャケットと呼ばれる鋼管で組み立てた立体トラス構造物をかぶせるように据え付けます。その後床版を据え付け、床版の隙間に間詰コンクリートを打設し、最後に表面を舗装し工事は完了となります。

見学会

見学会当日はあいにくの天気となりましたが、地元の方や市議会・県議会議員など合わせて約50名の方に集まって頂きました。

温品所長



佐世保市長からは「歴史ある浦頭が世界に開ける港になることを期待しています。」との言葉をいただきました

ジャケット据付
見学会の状況



道路部陸側ジャケット



前頁の写真が、見学会で据え付ける道路部の陸側ジャケットです。
大きさは記載の通りで重さは約100tあり、700t吊の起重機船を用いて据え付けます。
翌日据え付ける海側ジャケットも、ほとんど同じ大きさです。

多くの方々に見守られながら、据付開始！



よく見ると、海側ジャケットが既に遠くで待機しています。



前日までに、北九州の工場から浦頭地区まで、2000t積の台船を用いて海上運搬しました。



先行打設された鋼管杭



据付完了！



途中風の強い時間帯もありましたが、無事に据付を行うことが出来ました。今後、市やカーニバル社の工事も始まってきます。

関係機関と十分な調整を行いながら安全を第一に、2020年4月の供用開始に間に合うよう工事を進めていきます。